

「ひとつづくりの環」をつなぐ南部町教育

～コミュニティ・スクールを地域の風土として～

地域の
特色ある
活動

鳥取県南部町教育委員会

1 はじめに

本町は、鳥取県の西部に位置する人口約1万人の中山間地の町で、平成16年10月に隣接する旧西伯町と旧会見町が合併して誕生し、今年で18年目を迎えている。

町域は豊かな自然環境に恵まれ、国の特別天然記念物「オオサンショウウオ」も人間の生活圏と重なる河川に生息しており、西日本で唯一、平成27年度に環境省より「生物多様性保全上重要な里地里山」に町全域が指定されている。

2 地域とともに歩む学校づくり

コミュニティ・スクールを基盤に進めている「地域とともに歩む学校づくり」は、学校運営協議会で熟議を重ねつつ、ランドデザインという形で学校の可視化を図ってきた。そこからさらに町民総がかりで地域の学校に関わる意識の高揚に繋がっている。

しかし、子どもたちの地域行事へ参画しようとする姿勢やふるさとを愛する心は育っているものの、取組のマンネリ化などの課題も明らかになってきた。

そこで、昨年度より、0歳から15歳までを一貫した学びと育ちと捉えるため、これまでの学校単位の組織をCS委員会と改組し、中学校区の学校運営協議会とすることとした。

現在は今一度、原点に立ち返り、校種を越えてめざす子ども像やランドデザインを共有できる仕組みの再構築や地域学校協働活動との一体的推進に



複合施設「キナルなんぶ」にダッシュ!

取り組んでいる。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、本来しっかりと「熟議」を重ねた上で進める様々な活動が、「熟議」もままならない状況で中止や縮小を余儀なくされ、制限された活動となっていることは残念であるとともに、児童生徒への影響も懸念するところである。

また、保小交流の中止等で小学校入学前の不安を抱く保護者もあることから、アウトリーチ型家庭教育支援として、就学前児童の家庭を対象とした「個別家庭訪問」事業も進めることとした。

一方、GIGAスクール構想による一人一台端末の整備により、Webを活用した学びの幅は確実に広がり、Society5.0時代を生き抜く力の育成に取り組んでいる。

さらに、生徒や保護者の意見をはじめ、学校運営協議会での議論も経て、中学校の制服をジェンダーレスな仕様に切り替えるという人権に配慮した改革が進むなどの歩みもある。

3 「まち未来科」の学び

コミュニティ・スクールを核とした人づくりの推進の柱として、本町では、独自の保小中一貫（10年間）カリキュラム「まち未来科」を創設した。学校運営協議会委員や社会教育委員、後ほど述べる高校生や青年団員は、その学習場面や取材に応じたり、ともに考えたりするなど、各校で活躍する姿がある。



「まち未来科」リーフレット

「まち未来科」の10年間の集大成として中学3年生による『まち未来会議』がある。ここでは、斬新な提案内容や説得力のある発表、議論の深さなど、参加した住民の方々から賛同や称賛、激励をいただき、学びのプロセスを含めて中学生の大きな自信に繋がった。

その他にも、地域課題を自分のこととして捉え、課題解決に向かう姿は、まさに本町教育振興基本計画に示した教育理念「南部町から未来を切り拓くひとづくり」の具現化といえる。



「まち未来会議」で想いを伝える

4 高校生サークル「With you 翼」と新☆青年団「へん to つくり」の誕生

「まち未来科」で学んだ中学生が高校等へ進学した段階で地域との関係が疎遠となる現状を打破するため、「高校はないが、高校生はいる！」という担当者の想いをスローガンに、高校生サークル「With you 翼」は平成27年度に産声を上げた。まさに学校教育が社会教育と繋がった瞬間である。当初は、イベントなどへの参加が中心だったが、年を重ねるごとに中学校卒業までに培った地域とのつながりを継続・発展させた主体的な活動が増えてきた。また、町内の小中学校へ出かけてのメディア講座など、高校生ならではの発想や内容は秀逸であり、PTA 関係者からの称賛も得ている。

40年ぶりに復活した新☆青年団「へん to つくり」は、高校生サークルの卒業生たちの「今後も活動を続けていきたい」という熱意と、「若者の継続した地域との関わり」を課題として認識していた社会教育担当の両者の想いが一致して生まれた。新☆青年団はLINE グループでつながり、定例会（食事会）の中で、親睦を深めつつ活動について意見交換を重ねている。

これからの町の将来を担う若者が確実に育っていることに期待感が増す。青年議会などの取組も大変好評で、その姿に子ども達が憧れを抱き、町民がエールを送るような団体となりつつある。青年団員たちは、行事やイ

ベント参加を通じて、「今、何ができるのか」、「何のために活動するのか」など自らの課題意識を持ち始めており、10年後、20年後の幸せな人生・豊かなふるさとをめざして、「自分づくり」と「仲間づくり」を意識し、社会教育主事からの巣立ち・自立に向けて試行錯誤を繰り返している。

地域というフィールドで人と出会い、体験し、感動を味わい、幸せな生き方を見つけられる青年団活動を期待している。この活動が、団員個々の自己実現の場となってほしいと願ってやまない。

若者たちの笑顔を見る時、夢は広がり、希望は無限大である。コミュニティ・スクール育ちの団員が、学校運営協議会委員や点検評価委員になるなど、すでに人づくりの循環は始まっている。

彼女ら彼らに、まちづくりのバトンを渡す日は近い！



笑顔あふれる高校生サークルと新☆青年団

5 おわりに

本町では、コミュニティ・スクールを風土とし、社会教育と学校教育の融合を図りながら、大人も子どもも南部町に暮らす良さを実感できる教育行政を進めている。

With コロナでの次へのステップとして、持続可能な循環型のひとづくりの中心に高校生サークルや新☆青年団の若い力を据え、「まち未来科」で培った力をもとにグローバルに活躍する次世代の育成に取り組んでいく所存である。

教育行政の責務は、SDGsにある「誰一人として取り残さない」という目標を踏まえ、予測不可能な新たな時代を生き抜くための教育を戦略的に推進していくことと考える。



教育長
福田 範史